

健康 ぷらざ

早く正しい治療を

- ねんざ・つき指にご用心 -

指導：昭和大学医学部教授

黒川 高秀

企画：
日本医師会

No. 86

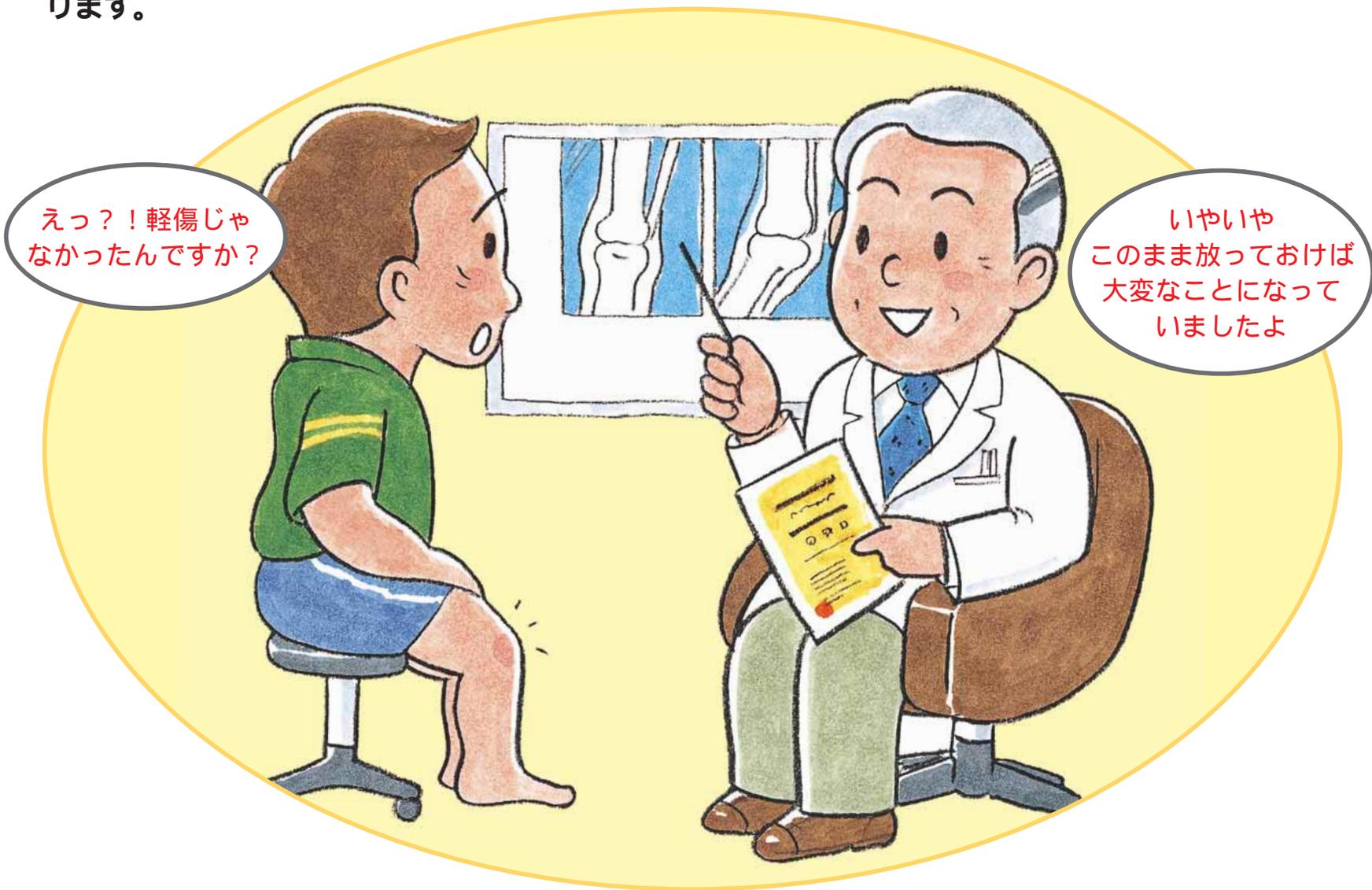
がまんや、軽視は禁物です

関節に無理な力がかかると「ねんざ」や「つき指」になります。足首、ひざ、手の指、肩などに多く、腫れて動かすと痛いのが特徴です。動かさなければ痛くないので、「しばらくがまんして様子を見る」ということになりがちですが、早く治療を受けなければ痛みが長引いたり、後遺症に悩まされることがあります。

関節の「けが」は重傷のことが多い

関節のけがは早く適切に治療しておかないと、痛みが続いたり、動かなくなってしまう。「ねんざ・つき指」には次のような場合がよくあるからです。

- 関節の骨が欠けたり折れたりしている
- じん帯や腱が切れている
- 関節の軟骨に傷がついている



軽傷と思っても医師の診察を

関節の骨折や軟骨の損傷は、外から見ただけではわかりません。できるだけ早く専門医でX線やMRIなどの検査を受けることが必要です。「若いときのけがの手当てが不適切だったために、一生苦しんだ」という話もあります。関節のけがは軽傷と思っても必ず専門医の診察を受けましょう。

谷本 誠 先生による「患者さんのお見せぐさ」。